令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大谷中学校 ）　　学校番号　２３９　　【様式】

目指す学校像	夢のある生き生きとした学校　　学校教育目標　大きな夢をもつ　自ら学ぶ　認め合う

重点目標	
	１　授業改善により、学力向上を図る。（目指す生徒像：自ら学ぶ生徒） ２　生徒指導・教育相談体制を強化し、一人ひとりの生徒の心理的安全性を高める。（目指す生徒像：認め合う生徒） ３　地域との連携を強化し、地域で生徒を育てる。（目指す生徒像：地域で学ぶ生徒） ４　教職員の心理的安全性を高め、プロ授業の研究・発展を図る。（目指す教師像：自ら誇れる授業を展開する教師）

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月１６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査において、どの教科も基礎問題・活用問題とも課題がある。 ○生徒アンケートで、授業に関する評価項目が年々上昇傾向にあり、良好な結果である。 ○日頃の学習の様子から、調査・整理・まとめ・発表する活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ＜課題＞ ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査において、国語は「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は良好であるが「書くこと」「読むこと」に課題がある。数学は「資料の活用」は良好であるが「数と式」「図形」「関数」に課題がある。上位層と中位層の間の生徒が少ない。 ○定期テストの結果では、学力の二極化傾向が見られる。	学力向上 ＝自ら学ぶ 授業改善 課題の提示 生徒の活動＞ 授業者の活動 担当：①数学、研推②研推③エバ	①授業で一斉の時間より個の活動や学び合い等の時間を最大限確保し、自由進度を加味した授業を展開する。 ②毎授業で、学び合う・協働作業等の時間を確保し、全生徒が１人１回以上発表し意見がつながる授業を展開する。 ③毎授業で探究、考察、発表、協働制作、振り返り等において、１人１台端末を効果的活用した授業を展開する。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「先生たちは、分かりやすい授業となるよう努めてくれている」 ②「本校生徒は、自らの考え・意見を言ったり、授業・部活動・学校行事等で自らを表現したりできている」 の項目で、肯定的な回答が９０％以上となったか。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「先生たちは、分かりやすい授業となるよう努めてくれている」肯定回答９７．８％ ②「本校生徒は、自らの考え・意見を言ったり、授業・部活動・学校行事等で自らを表現したりできている」肯定回答９５．０％ となり、達成することができた。	A	・分かりやすい授業、表現することについて成果がでた。しかし、１人１台端末の効果的な活用については課題がある。そこで、次年度は「一人ひとり」にこだわった授業展開を目指し、年間を通じて研修を行い、自律した学習者を育てていきたい。	・メリハリのある授業が展開できており、１人１台端末を活用した自分の進度に合わせた授業も見学できた。今後は、得意な生徒、不得意な生徒を同時に伸ばす授業をさらに進めてほしい。経済格差による教育の差とよく言われているが、そうでない教育を展開してほしい。そして、自ら目標をもち、自分なりの勉強方法を見つけたし、成長していってほしい。また、学校内外を問わず、生徒の発表の場を増やし、生徒が褒められる場面をたくさんつくってもらえると、保護者としてもうれしいし、生徒自身も伸びると思う。
		学力向上 ＝非認知能力を育てる （真の学力） 担当：①②③研推	①全授業者が１年間に１回以上、専門家・実物・体験、他校とつながる等の授業を展開し、学ぶ意欲を高める。 ②全授業者が基礎基本を提示し、全員ができるまで、繰り返し学習を支援し続け、自己効力感を高める。 ③スタディサプリやドリルパーク、ワーク等の提出物は、個の支援を徹底し、全員回収し、やり抜く力を高める。	①さいたま市学習状況調査に係るアンケートで、「家で、自分で計画を立てて勉強しています」の項目で、肯定的な回答が６０％以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「学校は本校の生徒の力を高め、伸ばしてくれている」の項目で、肯定的な回答が９０％以上となったか。	①さいたま市学習状況調査に係るアンケートで、「家で、自分で計画を立てて勉強しています」の項目で、肯定的な回答が５６．８％となり、目標に近づくことができた。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「学校は本校の生徒の力を高め、伸ばしてくれている」肯定回答９７．５％ となり、達成することができた。	A	・学校全体で、実物や体験活動、１０分間の基礎学習、基礎コツノートと生徒の力を高める取り組みができた。しかし、自分で計画を立てて勉強することにまだ課題がある。そこで、次年度は、自ら見通しをつくることや計画を立てる機会を増やし、自律した学習者を育てていきたい。	
2	＜現状＞ ○生徒、保護者アンケートにおいて、「学校の雰囲気はよく、生徒は明るく生き生きしている」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が非常に高い。 ○コロナ禍における授業や部活動の対応について、肯定的な意見が多い。 ＜課題＞ ○「食べる」「寝る」「決まった時間に勉強する」などの基本的な生活習慣が定着していない傾向がある。 ○新型コロナウイルス感染症の収束や終息に応じ、今後の学校の授業、行事の在り方について考える必要がある。	安心・安全 ＝認め合う 担当：生徒指導	①「話す・聞く・動く」等の授業規律を徹底し、一人ひとりが学びやすい雰囲気の授業を展開する。 ②生徒自身が学級や学校のルールを決め、自ら守る ②人権教育の充実（『自他の大切さを認めることができる生徒の育成』～全ての人々の人権を尊重するＳＤＧｓの理念を通じて～の研究を進める。 ③道徳、いじめ撲滅対策、不登校対策、笑い奨励、校則見直しを実施する。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「先生は生徒からの相談に適切に対応してくれる」 ②「本校生徒は、学級や学校のマナーやルールを守っている」 の項目で、肯定的な回答が９０％以上となったか。 マズローの欲求５段階（生理的欲求・安全欲求・社会的欲求・承認欲求・自己実現欲求）を充実する取組を行う。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「先生は生徒からの相談に適切に対応してくれる」肯定回答９３．７％ ②「本校生徒は、学級や学校のマナーやルールを守っている」肯定回答８５％ となり、ほぼ達成することができた。	A	・生徒の相談に適切に対応でき、マナーやルールを守る生徒を育てることができた。しかし、一人ひとりの生徒に目を向けると、不登校生徒がまだいる。そこで、次年度は、欠席が始まった生徒への対応強化、他を尊重する教育を通し、Well-being な環境を高めていきたい。	・素直で、純粋な生徒が多い。これまでと同様に「一人ひとりの生徒と魂で付き合う」ことを続けてほしい。一人ひとりの生徒が「NO1 でなく Only1」になる教育を進めていってほしい。生徒が家庭科の授業で、栄養教諭と一緒に給食の献立を考え、代表献立が給食になった話を聴き、生徒が考えたことが実現すると生徒の励みになる。今後も、生徒の考えを聞き、自分を表現する場所を増やしていってほしい。それが自信に繋がる。みんな自分を見てほしい、自分を認めてほしいと思っている。
		コロナ禍を乗り越える学校づくり	①感染症対策を徹底し、全ての行事を実施し、令和の特別活動を充実する。 ②学校保健委員会、講演会等を中心に、基本的生活習慣を向上する。 ③手洗い・消毒・換気・マスク・黙食・環境整備等、感染症対策を徹底する。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「生徒会活動や行事などが充実している」 ②「学校の雰囲気はよく、生徒は明るく生き生きしている」 の項目で、肯定的な回答が９０％以上となったか。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「生徒会活動や行事などが充実している」肯定回答９１．５％ ②「学校の雰囲気はよく、生徒は明るく生き生きしている」肯定回答９３．３％ となり、達成することができた。	A	・感染症対策を徹底し、生徒会活動や行事を全て実施することができた。今後は、After コロナへ向け、学校教育目標を最上位目標に、目的をさらに意識した授業や生徒会活動、行事を実施していきたい。	
3	＜現状＞ ○昨年度、学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、「大谷中生に身に付けさせたい力」について熟議を行った。 ＜課題＞ ○今年度は、昨年度の学校運営協議会準備委員会で共有した「大谷中生に身に付けさせたい力」を、家庭、地域、企業などに広め、地域に集う全ての方と共有できるようにする。また、さらに熟議を重ね、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。 ○「情報提供こそ信頼構築につながる」という考えのもと、日々の学校の様子を配信する。	学校運営協議会の組織づくり	①学校運営協議会を３回実施し、熟議を重ね、その実現に向けた継続的な方策を決め、動き出す。 ②安心メール、覗きたくなるホームページの配信、子育て案を提示する。 ③情報収集を行い、学校運営協議会と共に活動する組織を見つけ、連携する。	①学校運営協議会において、継続的な方策を打ち出すことができたか。 ②「学校は本校生徒の力を高め、伸ばしてくれている」の項目で、肯定的な回答が９０％以上となったか。	①学校運営協議会において、継続的な方策を打ち出すことができた。 ②「学校は本校生徒の力を高め、伸ばしてくれている」肯定回答９７．５％ となり、達成することができた。	A	・学校運営協議会の熟議において、生徒に付けたい力、継続的な方策を打ち出すことができた。また、相互の信頼関係を高めることができた。次年度も、学校運営協議会を数多く開催し、熟議&行動をしていきたい。	・忙しい保護者も多いので、放課後の生徒の居場所づくりも必要で、学校内に外部を取り入れるリスクｋもあるが、放課後学習室や地域サークルの導入も考えられる。学校で「横断歩道は手を挙げて」と教えるが保護者と一緒だとしないこともある。学校で指導していることを保護者に発信することも大切だと考える。知っている生徒だと声もかけやすいので、地域の方と触れ合う出前講座が必要です。
		地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくり	①授業内外で「いつでも、どこでも、誰とでも、学べる環境」を提供する。 ②日々の授業や出前講座等、地域人材を活用した学習を広げる。 ③生徒が考える企画やボランティア等の地域貢献をする活動を増やす。	①学校自己評価に係るアンケートで、「生徒は、あいさつや適切な言葉遣いができている」 ②さいたま市学習状況調査で、地域との関わりについての項目で、肯定的な回答が８０％以上となったか。	①学校自己評価に係るアンケートで、「生徒は、あいさつや適切な言葉遣いができている」肯定回答８５．９％ ②さいたま市学習状況調査で、地域との関わりについての項目で、肯定的な回答が３８．６％となり、目標に達せなかった。	B	・新たなるボランティア活動を始めることができた。しかし、生徒と地域との関わりについて課題がある。そこで、教育課程内外の地域との継続的な関りを増やしていきたい。	
4	＜現状＞ ○新たな学びのスタイルの中心となる ICT の活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○全教職員の英知を結集し、業務改善を行い、教職員の心の余裕が増えている。 ＜課題＞ ○ICT の活用について、教職員間で取り組みの差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりをさらに高める必要がある。 ○教職員により時間外在校時間の差があることが課題である。	Well-being な温かい職場環境づくり(業務改善)	①優先順位による業務の選定を行い、１００の取組変更を実施する。 ②月１程度の校長と全教職員が面談を実施し、やりたいこと、ワクワクすること、業務改善等を協議する。 ③積極的に生徒へ権限を移譲し、生徒の当事者意識や主体性を育む。	①業務について、１００の取組変更をすることができたか。 ②生徒主体の委員会活動ができ、生徒の当事者意識が高まったか。	①業務について、１００の取組変更をすることができた。 ②１人１台タブレットで、Forms 等を活用し、生徒主体の委員会活動ができた。	A	・小さいことから業務について数多く改善することができた。また、Forms によるアンケートが定着した。しかし、まだまだ時間外勤務が多く、授業準備が後回しにあるケースがある。次年度、働き方改革の研修を実施したい。	・若手の先生が増えている。今後も生徒と毅然とした態度で接していってほしい。「一人ひとりと魂で付き合う」ことを達慮せず続けてほしい。保護者との協力体制をつくることも大切なので、今後もぜひ、授業参観や行事の公開を通し、お互いの信頼関係を深めていってほしい。今、やめる先生も多いと聞くので、新しい先生、新しくくる先生に自由に学べる時間も確保していってほしい。
		温かい笑いのある職員室で、ともに高め合う研修の充実	①エバンジェリストを中心としたＩＣＴスキルの向上研修を実施する。 ②先進的な取組を調査と研修し、チャレンジ風土のある職員室をつくる。 ③相互授業参観等を行い、ベテランと若手を高め合う研修を実施する。	①エバンジェリストを中心としたＩＣＴスキルを向上する教職員研修ができたか。 ②相互授業参観を行い、ベテランと若手を高め合う研修ができたか。	①エバンジェリストを中心としたＩＣＴスキル向上研修を行うことができた。 ②相互授業参観を２回実施することができ、ベテランと若手が高め合う研修ができた。	A	・ICT スキル UP 研修や教職員の相互授業参観をすることができた。しかし、授業における１人１台端末の有効活用には課題がある。次年度は、１人１台端末活用についての研修をさらに充実していきたい。	